

関わった設備が まちを豊かにしている

秋田職業能力開発短期大学校は1993（平成5）年に開校し、約33年の間に2500名程の修了生が巣立ち、その内250名程が大館市内で働いています。近年は、全国的な人手不足もあり、関東圏での求人驚くような条件のものも見受けられますが、今回は早い時期から地元就職を希望した方を紹介します。

田中有紗さんは、2013年度に20期生として修了し、1年生の時から地元の大館桂工業株式会社を希望し、就職しました。大館桂工業株式会社は、設

た。当時田中さんは、「家から買い物に行く途中にあるあの会社で働きたい」といって同社への就職を希望していま

2026 東北能開大秋田校 鷹巣技術専門校

北鹿で活躍する修了生たち

～若者はなぜ地元で働く道を選んだのか～ 10

大館桂工業株式会社 設備課

田中 有紗さん

(秋田職業短大 住居環境科卒)



現場の確認をする田中さん



図面確認をする田中さん

した。建設現場の場合は、安全上の対策もあるのですが、安全柵の中や室内で仕事することが増え、昔のように働く大人の姿を子どもたちが目にする機会が減っているような気がします。田中さんも、身

「これからも『地域に必須で、かつ感謝される集団を目指す』という弊社のモットーを胸に、地域社会へ恩返しをしていきたいです」と意気込みを語ってくれました。

今後も当校の修了生が活躍してくれたいと思います。秋田職業能力開発短期大学校 住居環境科 特任教授

小笠原 吉張